

再刊にあたって

今、ようやく『西南アジア研究』第23号の刊行にこぎつけることができました。第22号の出版が1971年9月のことでしたので、13年目の再刊ということになります。学術雑誌というのは、水準の高い論文を定期的に出版するところに重要な意義があるのですから、その刊行を中断していたことへのお詫びとこれから続けてゆくための御援助のお願いを申し述べさせていただきたいと思います。

『西南アジア研究』第22号が出版された1971年9月は、この学術雑誌の発行にいつも御援助下さいました足利惇氏先生が、京都大学を御退官ののち東海大学へ移られて、すでに6年が経過していました。当時、先生は東海大学学長として、また日本オリエント学会常務理事として重い責任を負っておられましたので、わたしどもは、いつまでも先生の御好意に甘えていないで、何とか自立する道を探ろうと話し合いました。日本にあっては、当時も、西アジア・南アジアは専攻する者の少ない分野でしたので、結局のところはかなり高額な維持会費を相当多数の方をお願いするより外にないということになり、若干の方にはお願いしました。しかし計画は順調に進みませんでした。わたしどもが非力だったことによるのですが、また機も十分に熟していなかったと思われる。

その間にも、第23号を刊行する予定で原稿を集めて1972年3月には編集会議を開き、あとは印刷に回すだけとなりましたが、結局のところ『西南アジア研究』刊行のための財政的基盤を確保することができず、原稿をお返しの結果になってしまいました。刊行されなかった第23号のために御執筆くださった方々には大変に申し訳なく、心からお詫び申し上げます。

1976年に『西南アジア研究』再刊の声が高まりましたが、この時にも、わたしどもの非力の故にこの声を再刊に結びつけることができませんでした。

昨年、何としてでも『西南アジア研究』を再刊しようではないかという声が再び起りまして、夏ごろから若い人たちにも加わってもらって、また相談を始めました。ところが、ようやく軌道にのりだした頃、足利先生の訃報に接することになり、再刊の第23号を見ていただくことが不可能になりましたことは、ほんとうに残念です。しかし先生の御意志を体して奥様から寄せられました多額の御芳志により一同強い励ましを受けております。

別に御案内申し上げますように、財政的には維持会員を確保することによりまして、『西南アジア研究』の定期的刊行が可能となります。優れた論文を掲載するだけでなく、各種の情報も含めて、雑誌の内容に変化をもたせ、一般会員の増加にも大いに努力するつもりですが、今後ともよろしく御支援と御鞭撻をたまわりますようお願い申し上げます。

(編集委員会)

西南アジア研究 第23号 1984年12月20日印刷 1984年12月25日発行
編集兼発行者 京都大学文学部内 西南アジア研究会 代表者 織田武雄
振替口座 京都8-19867 印刷者 京都印刷紙工株式会社 京都市伏見区毛利町6
